

# 自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 16, No. 2

神奈川県立生命の星・地球博物館

Jun., 2010



## まくらじょうようがん 枕状溶岩の新産地

約 1700 万年前に海底を  
割って湧き出したマグマ

神奈川県足柄上郡山北町玄倉  
門田真人 撮影

かどたまさひと  
門田真人（外来研究員）

丹沢湖の東の端に位置する玄倉<sup>くろくら</sup>バス停から徒歩 15 分の谷に、奇妙な模様の巨大岩塊<sup>がんかい</sup>がいくつも横たわっています。それが上の写真です。これこそ丹沢山地誕生のドラマの始まりを告げた枕状溶岩です。

枕状溶岩は、マグマが海底に噴き出すことでつくられます。この楕円状の模様は、海底で噴き出したマグマが、海水により急冷されながらも、次々と流れたためにできたものです。

多くの地球科学者の研究によって、丹沢山地の生い立ちが明らかにされて

きました。「南の海からきた丹沢」、「丹沢の化石サンゴ礁<sup>しょうごう</sup>」などの本では、丹沢がロマンチックに紹介されています。昨年（2009 年）の秋に丹沢の玄倉で新たに見つかった小菅沢枕状溶岩こそ「海から生まれた丹沢」の見ごたえある“自然の遺産”です（p.16 参照）。

参考メモ：玄倉バス停前に「神奈川県立丹沢湖ビジターセンター」（電話：0465-78-3888）があり、枕状溶岩観察の簡単な資料を提供しています。また館内には、枕状溶岩の標本も展示されていますので参考になります。